

令和6年第1回船橋市商工業戦略プラン策定委員会 議事録

開催日時：令和6年10月28日（月） 10時30分

開催場所：船橋市役所本庁舎 10階 中会議室

出席者：委員長 手嶋 進 千葉商科大学 准教授
副委員長 市原保紀 船橋市経済部 部長
委員 加藤和彦 千葉工業大学 教授
小笠原永隆 帝京大学 教授
篠田好造 船橋商工会議所 会頭
大塚智明 船橋市商店会連合会 副会長
岡直樹 船橋市観光協会 専務理事
阿部健一 千葉県産業振興センター 参事兼企画調整課長
今井和夫 千葉県中小企業診断士協会 相談役
林康夫 船橋市企画財政部 部長
(欠席)
大原俊弘 船橋市地域工業団体連合会 会長
合田寛樹 船橋大型店連絡協議会 会長

○事務局

定刻となりましたので、ただいまより第1回船橋市新商工業戦略プラン策定委員会を開催致します。

委員の皆様におかれましては、お忙しいなか、お集まり頂きまして、誠にありがとうございます。司会を務めます経済部商工振興課の宇都宮でございます。よろしくお願い致します。

まず、本日配布いたしました資料の確認をお願いします。

- (1) 新商工業戦略プランの策定について
- (2) 船橋市を取り巻く社会経済情勢の変化（概要版）【船橋市の外部環境調査】
- (3) 船橋市新商工業戦略プラン策定に向けたアンケート調査（製造業）案
- (4) 船橋市新商工業戦略プラン策定に向けたアンケート調査（非製造業）案
- (5) 船橋市新商工業戦略プラン策定に向けたアンケート調査（商店街）案
- (6) 船橋市新商工業戦略プラン策定に向けたアンケート調査（船橋市民向け）案
- (7) 船橋市新商工業戦略プラン策定に向けたアンケート調査（市外住民向け）案
- (8) 船橋市商工業戦略プラン策定委員会名簿
- (9) 船橋市商工業戦略プラン策定委員会設置要綱

配布資料は以上でございます。過不足はございませんでしょうか。

ここで本委員会の位置づけについてご説明致します。

まず、現行の船橋市商工業戦略プランは、平成 27 年度に策定し、計画期間を平成 28 年度から 10 年間とした中長期計画となっています。しかしながら、プラン策定から 8 年が経過し、本市を取り巻く環境や社会構造、市民の生活スタイルや働き方、価値観などが大きく変化しました。こうした変化を踏まえ、これからの本市の商業、工業、さらには観光業といった産業の基盤強化と活性化を図るために、新たな商工業戦略プランを策定し、戦略的かつ効果的に産業振興を推し進めていきたいと考えております。計画策定にあたっては、地域特有のニーズや問題点を的確に把握し、それに基づいた実効性のある計画を策定するため、専門的な知見を有している学識経験者の方や地域の商工業などの現状や課題について深い理解を有している関係団体の方々に委員として携わって頂くこととしました。本委員会は、プラン策定に必要な調査及び研究に関すること、また、プラン策定に関することを所掌しております。委員の皆様におかれましては、専門的な知見や実際の現場での経験などを活かして、積極的にご議論いただければと考えております。

なお、事務局として経済部商工振興課の職員及び戦略プラン策定業務の受託者であるちばぎん総合研究所の職員が出席しております。

続きまして、次第 3 「委員長及び副委員長の選出」に移ります。

策定委員会設置要綱の第 3 条の 2 にて、「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」としております。

まず、初めに委員長を互選にて決定したいと思っております。委員長のご推薦がございましたら、お願い致します。

市原委員、お願いします。

○市原委員

私からは、手嶋委員を推薦致します。本プランでは、「商業分野や工業分野、観光分野」について記載していく予定ですが、船橋市の特徴として多くの大型商業施設が立地する県内有数の「商都」であることから、中心は商業分野になると考えています。

学識経験者の手嶋委員、加藤委員、小笠原委員につきましては、専門分野に限らず、広く横断的なご意見を頂くことになるとは思いますが、先ほど述べたように商業分野が中心になることから学識経験者である手嶋委員が適任だと思いますのでご推薦致します。よろしくお願ひします。

○事務局

ただいま、委員長には手嶋委員をとのご発言がありました。他の方をご推薦する方はいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようですので、手嶋委員を委員長に選任することに決定致します。

次に、副委員長を互選にて決定したいと思っております。副委員長のご推薦がございましたらお願い致します。篠田委員、お願いします。

○篠田委員

私からは、市原委員を推薦致します。市原委員は、市の経済部長として、商工業振興に関する豊富な経験と専門知識を有し、また、地域経済の発展に寄与する戦略的視点を持っておられます。また、委員長が不在の場合には、行政の職員として、この委員会の円滑な運営を図ることが期待できます。ぜひ市原委員が適任だと思いますので、市原委員をご推薦申し上げます。よろしくお願いいたします。

○事務局

ただいま、副委員長には市原委員をとのご発言がありました。他の方をご推薦する方はいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようですので、市原委員を副委員長に選任することに決定致します。

それでは、委員長に就任されました手嶋委員長より、一言ご挨拶をよろしくお願い致します。

○手嶋委員長

先ほど委員長にご指名を頂きました手嶋進でございます。本プランは、ほぼ船橋市の全産業という多岐にわたる範囲かつ10年を想定した長期計画であり、それを一つのプランにまとめるということは大変挑戦的な作業であろうと認識しております。そのような大変難しいとはいうものの、将来に向けて非常に重要なプランの策定委員会の委員長を務めさせて頂くということで、大変重責を感じているところです。最大限努力しまして、良いものをつくっていきたいと思っております。どうぞご協力よろしくお願い致します。

○事務局

ありがとうございます。続きまして、市原副委員長、一言ご挨拶をよろしくお願い致します。

○市原副委員長

副委員長にご推薦頂きました経済部長の市原でございます。第3次の総合戦略プランですが、当然ながら篠田委員、今井委員については、第1次、2次、3次といろいろとご協力頂いているなかで、心強いところではありますが、今回は立場上、副委員長ということで、委員長をサポートしながら円滑に委員会を運営できるように心がけたいと思います。ご協力のほどよろしくお願い致します。

○事務局

ありがとうございます。それでは改めまして以降の議事進行を手嶋委員長にお願いしたいと思います。

○手嶋委員長

それでは議事に入る前に、会議の公開・非公開に関する事項について、皆さまにお諮り致します。この件につきまして、事務局からご説明をお願い致します。

○事務局

本市においては「船橋市情報公開条例」及び「船橋市附属機関等の会議の公開実施要綱」に基づき、会議の概要及び議事録を原則公開としております。また、本日の会議につきましては、傍聴人の定員を5名とし、事前に市のホームページにおいて、開催することを公表いたしました。傍聴人がいる場合には「公開事由の審議」の後に入場して頂きます。

当会議につきましては「個人情報等がある場合」または、「公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがある場合」などを除き、原則として公開することとなっております。また、議事録については発言者、発言内容も含め全てホームページ等で公開されます。

本日の議題については、個人情報等は含まれておりません。また、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれは無いものとして、公開として差し支えないものと考えます。事務局からの説明は以上となります。

○手嶋委員長

説明のとおりですので、この会議は公開とし、会議の議論の内容によって、非公開の事由にあたるおそれがあると判断した場合は、改めて皆様にお諮りするものとさせていただきますと思います。皆さまいかがでしょうか。

(一同異議なし)

ご異議がないものと認めまして、本日の会議は公開と致します。
本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。

○事務局

なお、本日は傍聴の希望者が1名おります。

○手嶋委員長

それでは、傍聴人に入室頂いてください。

では、次第4の議題に移ります。初めに、「(1) 新商工業戦略プランの策定の概要」について、事務局から説明をお願い致します。

○事務局

資料1の新商工業戦略プランの策定について、説明致します。資料1をご覧ください。まず、「1. 策定の方向性」については、現行のプランは令和7年度に終了することから、令和8年度からの新たな計画を策定に向けて、令和6年度から策定を開始するものでございます。

また、新しい計画は、現計画の方向性は基本的に踏まえつつ、本市を取り巻く外部環境や内部環境にあわせて新たな施策や事業を検討します。次に、工業地域のあり方は、新たな道路網の整備がいろいろ予定されておりますので、道路網の整備等を踏まえて、既存地域の高度利用や新たな産業用地の創出などを含めて、事業用地の拡大に向けた展望等を示していきたいと考えております。

また、市が目指す観光施策の方向性についても、このプランで示していきたいというふうに考えております。大きな方向性としては、以上でございます。

「2. 策定の手法」については、令和6年度については、総合計画などの関連計画との内容の確認等を踏まえて、前提条件の整理、また経済センサス等の様々な統計資料との確認による文献調査を行いまして、その後、今回の議事にもなっておりますアンケート調査やヒアリング調査等を進めていきます。その調査結果をまとめるというところを令和6年度には予定しております。

また、その調査結果をもとに、改めて船橋市の現状、強みや弱みを確認していきたいと考えております。令和7年度につきましては、令和6年度に行いました調査結果をもとに、改めまして地域のポテンシャルの整理を行いまして、今後10年間の将来像というものを描きたいと思っております。また、その将来像に含めて、基本方針や事業内容について検討していきます。また、実施するにあたっては、指標を設定するとともに、このプランについて効果的に進めていくための進捗をどう管理していくかということについても、令和7年度に考えていきたいと思っております。

次に、「3. スケジュール」でございます。裏面をご覧ください。

本日、令和6年度10月に第1回策定委員会が行われました。この委員会を経た後に、年明けまでにアンケート調査やヒアリング調査を行い、令和7年3月に第2回の策定委員会を行う予定です。ここで調査結果のご報告をしたいと思っております。

令和7年度から骨子案の作成に入り、令和7年6月には骨子案の審議を頂きたいと考えております。骨子案をご審議・承認いただいたあとに、素案を作成し、8月中には素案（案）をつくりまして、ご審議頂きたいと考えております。その後、9月には議会に報告をしまして、11月のパブリックコメント等を経て、令和8年2月または3月頃にはプランの確定というようなスケジュールで動きたいと考えております。

最後に「4・策定体制」は、先ほど商工振興課長から説明がありましたが、学識経験者とともに関係団体の皆様、市の職員の3つの分野から構成された委員として、今回策定体制を組織しております。以上でございます。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見あるいはご質問はございますか。ないようですので、次の議題「(2) 船橋市を取り巻く社会経済情勢の変化について」事務局からご説明をお願い致します。

○事務局

船橋市を取り巻く社会経済情勢の変化についてご説明します。商工業戦略プランの策定にあたって、船橋市の外部環境と内部環境に分けて調査・分析を行います。内部環境調査については、本日、調査票をご審議頂くアンケート調査など、これから調査に着手しますが、本日は、船橋市を取り巻く外部環境について概観したいと思います。

外部環境と一口に言っても、テーマが幅広く、今回は、商工業に関連する重要性の高いテーマを抜粋しています。この他にも色々な視点があると思いますので、「こういった切り口の分析も必要ではないか」などのご意見がございましたらご教示頂けるとありがたいです。

それでは、お手元の資料2-1をご覧ください。図表1では、船橋市を取り巻く外部環境をプラス要因の機会（チャンス）とマイナス要因の脅威（リスク）の2軸で整理しました。それぞれ簡単にコメントさせていただきます。

まず、船橋市の商工業にとっての機会ですが、日本経済が成長軌道にあることがあげられます。2023年度の経済規模を表す実質GDPは558兆円と過去最高を記録しました。

次に、1ページの右側に記載しましたが、SDGsやデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進機運の高まりがあげられます。

SDGsに関連するビジネスチャンスを捉えるとともに、脱炭素や環境保護に配慮した事業運営を行うことで、地域社会への貢献とともに、企業の競争力を高めることができます。

また、コロナ禍を契機に日本のデジタル化の遅れが露呈したこともあって、デジタルを活用した業務変革すなわちデジタルトランスフォーメーションがクローズアップされています。図表3はコロナ禍で進展したデジタル化のトップ3ですが、キャッシュレス決済やオンラインショッピング、テレワークやペーパーレス化、オンライン学習などが上位に来ています。特に、キャッシュレス決済やオンライン販売の導入を進める必要があり、この分野で船橋市の商店街に遅れがみられないかなど、今回のアンケート調査で確認します。次に、千葉県では、成田空港や高速道路網の整備が進展して、アクセス利便性が向上していることがあげられます。船橋市の北部にある小室インターチェンジから成田空港までは、現在45分程度で移動できますが、北千葉道路の印西～成田間が開通となると、更に移動時間が短縮され、産業用地としてのポテンシャルが高まるものとみられます。

右下の図表4は、外環道（千葉区間）の開通による経済効果ですが、対象となる26都県のなかで、船橋市への経済効果は174億円と最も多く、全体の約2割を占めています。このことは、船橋市の産業集積が国内有数であることの証左ともいえます。今後の公共交通の整備進展は、船橋市の商工業にとって追い風といえます。

裏面の2ページをご覧ください。外国人観光客（インバウンド）がコロナの収束に伴い、過去最高水準となっています。世界経済フォーラムが公表した世界の観光魅力度ランキングによると、日本は、アメリカ、スペイン、フランスを押さえて堂々の一位となっており、今後もインバウンドの増勢は続くものとみられます。一方、日本人観光客の水準は、コロナ禍前にいまだ戻っていない状況です。

今回策定する商工業戦略プランでは、観光が主要なテーマの一つとなっていますが、誘客するターゲットをどのように設定するかは戦略の前提です。急増しているインバウンドへの対応力強化は重要な課題ですが、インバウンドは観光客全体の5%に過ぎず、太宗を占

めている日本人の観光需要にもしっかり対応することが求められます。船橋市の場合は、周辺市も併せると商圏内の人口が大きいので、「地元」で観光する近距離の旅行すなわちマイクロツーリズムに勝機がありそうです。

次に、左下に記載しました船橋市にとっての脅威（リスク）です。まずは、日本国内の人口減少・少子高齢化が進行していることがあげられます。日本の人口は、2020年から2040年にかけて約1,300万人減少する見込みとなっています。この約1,300万人というと九州に住んでいる人の合計とほぼ同じであり、消費マーケットや生産活動の縮小など需給両面にわたって大きな経済活動の下押し圧力となります。特に、働き盛りの年代が徐々に減少しているという構造的な背景もあって、企業の雇用不足は深刻な状況です。雇用をいかに確保していくかは、次期の戦略プランで主要なテーマとなります。

2ページ右上をご覧ください。原材料や賃金など生産コストの上昇に伴う物価上昇すなわちコストプッシュインフレが急速に進行しています。その背景には、図表8でご確認いただけるように円安が一因となっています。図表9は消費者物価指数の推移ですが、2022年以降かなりの角度で物価が上昇していることが分かります。企業の業績への悪影響が懸念されるところであり、今後の動きに注視する必要があります。

次に、日本全体が人口減少局面に入っているなかで、定住促進や企業誘致の地域間競争が高まっていることがあります。図表10は工場の立地件数の推移ですが、千葉県は茨城県の4分の1程度の低位に留まっています。その背景には、千葉県では産業用地が枯渇していることがあります。船橋市においても、産業用地の確保は持続的な商工業振興において喫緊の課題です。

最後に、台風・豪雨の大型化や首都直下型地震など大規模災害の発生リスクが高まっていることがあげられます。企業にとっては、自然災害や経済変動に備えた事業継続計画を策定し、リスクマネジメントを強化することが必要です。

以上、駆け足でしたが、経済情勢の変化についての説明と致します。報告書には、もう少し細かい分析もあるので、あわせてご確認ください。

○手嶋委員長

ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見やご質問はありますか。

○今井委員

今後、計画をつくるにあたり、商工業全体で考えると、計画をつくって、こういうことをやっていきましょうというときに、誰がやるのというのが問題になってくると思います。資料に記載のとおり、高齢化が進むなかで、工業、商業の各中小企業の皆様方が、共通して人材確保について困っています。一方、今は人材の多様性ということで、高齢者や女性、外国の方、また商業に関しては市民活動団体など、商店街の皆様方だけではなかなかできないことを、どう市民を巻き込んでやっていくかという、要は、そういう人材を確保していくのか、どう連携していくのかというところの視点で、船橋市においてはそういったことが可能なかを調べて頂きたい。そういう活動があることがわかれば、今後の参考になると思いますの

でご意見させて頂きました。

○事務局

今いただいたご意見について、現状でお示しできるものを持ち合わせていませんが、今回の指摘も踏まえ、今後の調査であわせて確認をしていきたいと思っております。

○手嶋委員長

他の委員から何か関連したご質問、あるいは今のご指摘に対してのコメント等ございましたらお願いします。

私も大学というところで働いている立場上、産業に資する若い人材を輩出しなければならないという使命を感じておりますので、若者の人材等についてもプランの中である程度記載できればいいのではないかと考えております。

○手嶋委員長

他にございますか。

ないようですので、次の議題「(3) 各種アンケート調査票（案）の検討」について、事務局からご説明願います。

○事務局

各種アンケート調査票（案）について、ポイントを絞ってご説明します。資料3～7をご覧ください。

まず、今回のアンケート調査の対象は、製造業、非製造業、商店街、船橋市民、船橋市以外の住民の5つです。そのうち製造業と非製造業については、船橋市内にある約8千社の全事業所を対象にします。

次に、アンケート票の内容です。各調査票（案）は、黒字と赤字で示していますが、黒字の部分は、前回の調査と同じ設問を採用しています。これにより、経年変化を分析することが可能です。前回調査は、現行の「船橋市商工業戦略プラン」を策定した平成26（2014）年8月、また製造業・非製造業向けの後期戦略を策定した令和2（2020）年11月時点の2つです。調査票（案）には比較する実施年度が記載してあります。

赤字の部分は、前回の調査から変更・追加した設問です。新たに追加した設問や選択肢は、過去約10年間の環境変化を踏まえ、今日的なテーマ、例えばSDGs、脱炭素、デジタルトランスフォーメーション、アフターコロナ、観光、雇用に関するものです。なお、国の外郭団体が実施したアンケート調査と同じ設問を設定し、船橋市の事業者の水準を測定できるようにしています。調査票（案）には比較する団体が記載してあります。

商店街振興に関しては、商店街のイメージについて、商店街と消費者の両方に同じ設問を設定し、そのギャップを探ることで、商店街の課題や今後の方向性を明らかにします。

また、消費者アンケート調査では、コロナ前後の消費行動の変化に関する設問を新たに設け、今後の船橋市の商業の方向性を見える化します。

最後に、今回のアンケート調査では、アンケート票とは別に船橋市の商工業振興の支援事業に関する説明文を同封します。これにより、船橋市の支援事業を幅広い企業に利用していただけるよう、支援事業の認知度向上を促進します。

以上駆け足になりますが、今回のアンケート調査の概要の説明を終わります。

○事務局

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますか。

○大塚委員

資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」の属性やスクリーニングの設問に、出身地を聞く設問を追加することは可能でしょうか。生まれが船橋市内でそのまま成長し、今も船橋に定住しているのかということは、先ほど定住誘致という話があったと思いますが、実際、今、定住者がどれぐらいいるのかが分かるかと思いました。

また、資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」と資料7「アンケート調査（市外住民向け）」に共通しますが、「【2】船橋市の経験（認知）度」の設問、問11の施設のところに、船橋市中央卸売市場や船橋市立医療センターを追加することは可能ですか。先ほど船橋のポテンシャルとしてのマイクロツーリズム的な発想があると聞きましたが、10年ごとの変化を追っかけられるという意味において、今再生を行っている船橋中央卸売市場を追加する、あるいはメディカルタウン構想が出てきており、今は医療だけだと思いますが、今後は健康という切り口からもメディカルタウンやメディカルツーリズムというのも入ってきて、それが一つの大きな観光の切り口になるかと思いますので医療センターという施設を追加することは可能でしょうか。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。2つほどご指摘頂きましたが、事務局からお答え頂いてよろしいでしょうか。

○事務局

まず、出身地の設問を追加することは可能でございます。船橋市には、移住されている方が多くいらっしゃると思いますので、回答者の出身地でクロス集計を行うことでどういう結果が出るか、そういった分析もあわせて行いたいと思います。

また、2つ目のご質問の観光面における船橋市の施設について、地方卸売市場と医療センターを追加してはどうかというご意見を頂きました。こちらを追加する方向で市の職員と相談しながら進めていければと思います。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○岡委員

先ほど分析の話をお願いしたなかで、観光戦略のなかで、どの地域からどんな人を連れてくるかというところが大事という話がありましたが、それを検討する回答がこれで得られるのか。このアンケート調査の結果のなかで、何をどう検討すると、その対象エリアなどの検討材料になるのかが理解できませんでした。設問を増やしてほしいという話ではなく、そういったものを検討するのにどういう情報を集めたらいいのか、現状のアンケートからだと分からないと思います。

もう一つは、素人質問ですが、そもそも船橋の産業を考えると、他の地域からあらゆる形で船橋市にお金が入ってきて、それをいろいろな生産活動のなかで、外に出ていく分もあるなかでいうと、最終的にどれだけ船橋に富が残るかというところが、やはり地域の経済を非常にシンプルに考えたときにはそういうイメージになると思います。観光協会の役割は、やはりよその地域からどれだけその場所に人を引っ張って来ることができるか、いろんな人に来てもらえるかということだと思います。いわゆる観光地ではなく、ベッドタウンである船橋には、船橋駅前には、小さな店から大きな店までみんなで集まって食事できるところがたくさんあり、人が集まる要素はありますが、それが必ずしも「観光」というイメージとぴったり合わないような気がしています。例えば、県内でいろいろなところから集まって食事しようとしたときに、船橋やこの周辺は集まりやすいと思います。そういったときに飲食店や小売店、ららぽーと等の大型店など、他の地域から人が集まってもらえる場所を観光協会としては大事にすべきと思いますが、それが観光施設かと言われると、そういうくくりにはならないというジレンマもあります。今後、皆さんのお話を伺うなかで、観光協会としても、今の医療センターの位置づけも含めて、船橋市によそから人を呼べるものがどの程度あるのか整理をしていただけたらと思っています。

○手嶋委員長

ありがとうございます。事務局からまずコメントを頂いてもよろしいでしょうか。今のご質問を明確化して頂いても結構です。

○事務局

どの地域から船橋市に来ているのか、これを分析するのは非常に重要だと思います。船橋市民と市外住民に対して、今回、船橋市内の施設やイベント、グルメ等の経験度、認知度について聞いております。これらの施設が市民にどれほど愛されているのか、また、船橋市外は東京圏を対象としますが、どの地域から来て頂いているのかをクロス集計で分析します。観光情報は全方位に発信していても非効率なため、なるべく多く来て頂いている地域の方々に的確に情報が届けられれば、観光振興に直接的に寄与すると思います。今回のご意見を踏まえ、そのような視点で分析していきたいと考えております。

また、非製造業を飲食店や小売店のように業種別にクロス集計をすることができます。今回の観光というテーマに関して、経営者が課題としてどの程度みていらっしゃるのか、そういう質問も用意しています。観光に対する温度差が業種によってかなりあるのではないかと

いう問題意識に基づいておりますけれども、意識の低い業種につきましては、やはり外からの人をいかに呼ぶかという発想を持って頂くことも必要だと思います。ご意見を踏まえて、そのあたりも分析したいと考えます。

○手嶋委員長

これに関連いたしまして、コメント等ございましたらお願いします。

○小笠原委員

船橋市の印象としては、岡委員がおっしゃったように、アンデルセン公園や三番瀬海浜公園は、観光に当てはまるかもしれないですが、船橋市は、いわゆる「観光地」ではないような気がします。船橋ヘルスセンターがあった頃は、そういうところであったと思いますが、「ららぽーとスキードームSSAWS（ザウス）」が今は「ららぽーと」に変わりました。ものすごい人が買い物や食事等の目的で来ていますが、観光で来ているかといわれると、なかなか難しいところがあります。船橋は、船橋らしい形態でむしろいいのではないかと、観光地になるような努力をしなければいけないのかという違和感があります。船橋市は、シテイプロモーションにかなり近い観光形態だと思います。最終的な目的としては、船橋のファンになってもらい、船橋はいいところだよ、「ふなっしー」や小松菜があり、何かちょっとおもしろいな、食べてみたい、飲んでいたいな、買ってみたいな、ちょっと見てみたいぐらいのところで私はいいのではないかと思います。むしろ、それが船橋市の魅力であり、船橋はとても面白いところで、しかも便利なところで、最終的にここに住みたいなに着るといいのではないと思います。

中山商店街等と付き合いがありますが、ららぽーとみたいな大ショッピングセンターもありながら、一方で個人商店や商店街も頑張っているというところも船橋の魅力だと思います。船橋駅の周辺の飲み屋は、昔は親父しか寄り付かないようなところに、最近では、若い人や女性、一人で来る人も結構いて客層が変わってきたと思います。船橋の魅力について、SNSやYouTubeなどでルポが出て広まり、船橋が話題になって、おもしろいというので、若い人の心をつかみつつあり、親父から若い人、女性まで客層が広がっていると思います。

今、都市部の方ばかりを言いましたが、ルーラルツーリズムといった良い意味で田舎良さというのも船橋市にはあります。小室の方には、いまだに農村風景を楽しめるところがあり、アンデルセン公園もいい風景が広がっています。そういう緑豊かなところも持ち合わせていることが魅力であり、そこで体験や散策できるという紹介ができれば、さらに船橋の魅力を高めていくことができます。船橋市には、産業観光に関わるいろいろな中小企業や職人もいますので、そういうところを見たり体験できたりすることも船橋全体の魅力を高めることができます。

最終的にそれをどうまとめ上げて帰結させていくか、あるいはエリア別に個性を出していくのか、さまざまな手法があると思いますが、いろいろな観光戦略プランができると思っております。その際、基軸に置くのは、シテイプロモーションを意識した形態の観光だと、私のつたない経験からは感じています。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。今いただいたコメントに対するコメント等、あるいはご質問やご意見がございましたらお願いします。

○阿部委員

今の小笠原委員の話に追加の発言になりますが、私は船橋市を含めて4つの戦略プランの委員をしています。どこの市町村でもやはり観光が一番の課題となっています。観光で人を呼べるというのが各市町村にはあまりないのですが、船橋市は、施設が人を呼び寄せることによって「市が潤う」魅力的なものがあるので、それを生かしながらいろいろと考えていければいいと思っています。

各市町村では、商業よりも工業の方がいわゆる陳腐化しており、後継者不足や人手不足等で事業を続けていくことができない企業が非常に増えています。できれば人手不足、あるいは後継者不足にもある程度力を入れて頂くと違うのかなと思います。

○手嶋委員長

他にご意見あるいは資料に対する質問等ございましたらお願いします。

○今井委員

観光も商業も同じ考え方だと思いますが、市が今後支援するということになる、結局、主体者は企業になります。市は、商業も観光も市外からの集客をどうするのか、また、集客をした人たちから、商業者や観光事業者がどのように売上や利益を得ていくのかといった点に対しての支援も考えなければいけないと思います。

そもそも今回のアンケート調査票は、前回のアンケート調査の改良型というような説明を受けましたが、そうであれば前回商業や観光に関してどんなビジョンやプロジェクト計画を市が立てて、現状はどうであり、その検証とそれに基づく今回の策定に当たってのニーズや外部環境の調査という前回は検証した上で今回があるべきだと思います。その辺は、アンケートに関して説明はありましたが、どういう狙いでその検証をした結果、どういう狙いで今回するのかなど見えない部分があるので、前回の計画を生かした上で今回があるともっといいというのを感じた次第です。

もう一つは、前回はやってアンケートを取られると思いますが、前回どのぐらい回収率があったのでしょうか。特に資料3「アンケート調査（製造業）」と資料4「アンケート調査（非製造業）」は市内8千社に配布予定とのことですが、アンケートの内容が重たい感じがするので、本当にこれで協力していただけるかなと感じます。協力を頂くに当たって何か工夫があったらお伺いしたいです。以上2点です。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。それでは、事務局からコメントをいただいた方がいいかな

と思います。前回の調査のそもそも評価や現状としてはどのようなふうに捉えておられるかという1点目であり、2つ目も関連しまして、非常に重いアンケートですので、前回どれぐらいの回答率があったのか、今回の回収率向上の工夫というのがありましたら、よろしくお願ひ致します。

○事務局

現計画の評価に関しましては、それぞれ商業、工業ともに指標を立てておりますので、その指標が達成できたのかどうか、その辺でも検証は進めていきたいと考えております。

また、アンケートの設問で経年比較をすることに関しては、例えば、経営課題は約10年前と比べて、雇用に関する課題がどれほど意識されているのかとか、販売先の拡大に関する問題意識はどうかとか、先ほど申し上げましたように、いろいろな経営課題がある中で、観光客への対応というのはどの程度意識されているのかなど、その辺は経年変化の設問を見ることで、この10年間で経営者のなかで何が変わったのか、今後はどういうふうに変わっていくべきか、そういったところを検証できればと考えております。

アンケートの回収率に関しては、我々シンクタンクということで、企業向けアンケートを年間10本以上やっていますが、大体10%前後の回収率というのが一般的です。3,000社を抜粋して発送することも検討しましたが、3,000社の10%というと300社程度になり、母数としては足りないかということと、また企業の経営者の皆様は、いろいろな商工業振興に関する意見をお持ちであろうかと思ひます。発言機会や意見提供をすることの公平にも考慮して、アンケートの対象企業は全事業所としました。ちなみに10年前も同じ形で実施しています。また、これから検討することになるかもしれませんが、今回はFAXではなくメールアドレスをお聞きしています。希望される方にはメールにて報告書をお送りするというようなことも他市の事例であります。やはりアンケートで意見を提供するだけではなくて、その結果を確認して自分の経営に生かしたいと考える経営者もいらっしゃると思ひますので、その辺は回答率を高める工夫として検討していければと考えております。

○今井委員

前回の結果等々の検証というのは、今回の事業の中で行っていくということでしょうか。わかりました。ありがとうございます。

○事務局

前回の検証について補足をしますと、今期の計画全体の検証というのは、まだ期が終わっていない段階ですのでこの後進めていくこととなります。ただ、前回の戦略プランの期間10年を前半と後半で分けると、今は後期戦略プランを進めています。後期戦略プランの策定段階で、前半の重点事業については一定程度情報収集や検証は進めていて、ちょうどこのプランの見直しのところがコロナ禍の時期と重なりましたので、後期戦略プランについては、まずはコロナ禍に対する対策を中心とした、これからの時代を見据えた経済施策というものを掲げて取り組んでいるところです。前半から後半にかけての全体的な総括については、今後、

次期のプランの策定のなかで検証していくことになろうと思います。前半部分で取り組んだことについては、後期戦略プランの中で一定程度検証はしているところです。その上で、引き続き取り組むべきことというものを後期戦略のこれからの時代を見据えた経済施策ということで掲げていますので、その部分を中心に、改めて検証を進めていくことになろうと思います。以上補足です。

○大塚委員

手元に資料がないので、前回の戦略プランがどのようなものだったのか、どういう戦略プランが立てられていて、それに基づいて行動してきたというものの、その過程や展開を認識できていないので、可能でしたら、前回の戦略プランの資料をいただければと思います。

先ほどお話しした部分になりますが、私は、津田沼駅前で商売をしています。基本的には地元の方にお越し頂きますが、地元のことや昔の船橋や津田沼のことをほとんど知らない方が多いという印象です。例えば、私は15年ぐらいお店をオープンしていますが、地元のお客様にいつオープンしたのと言われます。おそらく引っ越してきた方かと思いますが、地元のことを知らない方が多いのかなというのを肌で感じています。

先ほど観光という意味で、市外から人を誘致しようという話になっていましたが、船橋市には人口が63万人いますので、船橋市内の人が船橋市内で消費してもらう施策を立案できるようなアンケート調査ができればいいということで、先ほど出身地の設問を追加してほしいとお願いしました。その他にも同様の切り口の項目がありましたら、ぜひ追加していただければと思います。以上です。

○手嶋委員長

ありがとうございます。また、事務局からコメントをいただきましたら幸いです。

○事務局

前回のプランについて説明が不足しており大変申し訳ございません。資料は、会議の後に個別にお渡しさせていただきます。

簡単に概略だけお話しすると、10年前の平成27年度につくった計画は10年間の計画です。テーマは、「～『チーム船橋』でつなぐ市民力と産業力～ オンリーワンシティ船橋」というものを全体の標榜として、商業戦略と工業戦略、横断的戦略の3つの戦略を立てています。商業戦略は、「おもてなしで人を惹きつける魅力あふれる商都」、工業戦略は、「創造と連携で未来を切り拓くものづくり」、横断的戦略は、「持続可能な産業基盤とネットワークの形成」という3つの戦略に各事業をひも付けて実施してきたところです。今回の計画策定と異なる部分は、皆様のなかで話題に上がりました観光についてです。観光は、観光戦略として大きく立てていたわけではなく、横断的戦略の一つとして、商業などをどういうふうに発信していくか、プロモーションしていくかという一角で観光的な要素が出てきていたというのが今までの計画です。概略は以上です。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。他にご質問をコメント等ございましたらお願いします。

○阿部委員

このアンケートは、全部郵送なのか、こういった形でこのアンケートを実施するのかを教えてくださいたいと思います。

○事務局

資料3「アンケート調査（製造業）」、資料4「アンケート調査（非製造業）」、資料5「アンケート調査（商店街）」につきましては、紙のアンケートを郵送で発送・回収するという形です。一方、資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」と資料7「アンケート調査（市外住民向け）」に関しましては、インターネットを活用したWEBアンケートの形で実施する予定です。WEBアンケートは、東証の上場会社であるクロスマーケティングを利用し、その会員の方向けにアンケートを配布して、関心のある方に回答頂くという形です。この手法は国などでも施策を考える時に利用しているものであり、今回はこの形を取りたいと考えます。

○手嶋委員長

他にコメント等ございますか。

○小笠原委員

資料5「アンケート調査（商店街）」の6ページ目の問13に「多言語」という言葉が使われていますが、英語しか使っていない場合、それは多言語というのか。多言語というと、人によってはイメージとしては中国語やフランス語をつけないととか、3か国語以上ないと多言語ではないと感じられる人もいると思うので、注釈をつけるか、あるいは外国語という簡単な表記にしてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。多言語という言葉について事務局コメントございますか。

○事務局

多言語に関しまして、はっきり注釈をつけるか、もしくはご指摘のような外国語という言葉に変えるのか、事務局の方で検討したいと思います。現在の多言語というと、日本語以外の言葉を使っている、いわゆる日本語と英語の2言語だけでも多言語というふうに我々としては考えていましたが、誤解を思われる方もいると思うので、定義をしっかりと明記したいと考えます。ご指摘ありがとうございます。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。他にご意見等ございましたらお願いします。

○加藤委員

最初に外部環境の話がありましたが、やはりSDGsや脱炭素などの機運が高まっているという面、あるいは持続可能な社会の実現というところ、そこに向けた新しい価値の創造というのが今後、中長期的な計画を立てるにあたってはかなり重要な視点と考えております。その点で、資料3「アンケート調査（製造業）」、資料4「アンケート調査（非製造業）」には、SDGsや脱炭素、DXという新しい項目が追加されているが、対して資料5「アンケート調査（商店街）」や資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」、資料7「アンケート調査（市外住民向け）」については、持続可能な社会の実現に向けたところ意識というか、そのような設問が見当たらないと感じています。市民の方々と、製造業や非製造業の両者の持続可能な社会の実現に向けて意識を評価した方がいいのかなと思っております。

もう一点ですが、資料3「アンケート調査（製造業）」と資料4「アンケート調査（非製造業）」について、事業者の方々のSDGsや脱炭素に関しての取組や意識についての設問があるが、船橋市に対してどういうふうに評価しているのかを聞いておくといいのかなと感じています。例えば、問11の立地環境の評価のなかで、そういった持続可能性について、市としての雰囲気や環境に魅力を感じて立地を評価しているといったことを入れておくということも一つ考えて頂くといいのかなと思いました。以上です。

○手嶋委員長

ありがとうございます。事務局からコメントをお願いします。

○事務局

資料5「アンケート調査（商店街）」に関しまして、持続可能性を高めるような、具体的にはSDGsの取組の設問が不足しているのではないかとのご意見を頂きました。商店街のデジタル化に関してはこれから必須ということで説明をしましたが、確かにご意見を伺うと、個店ではなく商店街単位で地域の持続可能性を高めるような取組をしているかどうか、恐らく仮説的に考えてみれば弱いところかもしれませんので、その辺をアンケートで測定する重要性が高いというふうにご意見を伺って思いました。事務局の市の職員の方と相談して進めていき、設問を新たに設置する方向で考えたいと思います。

また、資料3「アンケート調査（製造業）」と資料4「アンケート調査（非製造業）」のなかで、立地環境に関することも、地域の持続可能性を高めるような取組や、その中でも脱炭素はかなり優先順位が高いと思いますが、そういう取組に熱心な地域なのかどうか、そういうところも立地を決める際の一つの選択肢になり得るとのご意見を頂きました。どちらも新たに設問を考えまして、対応する方向で検討したいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

○事務局

今の回答ですが、加藤委員のご意見の中には、資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」、

資料7「アンケート調査（市外住民向け）」にも持続可能な取組についてどういうふうな印象を持っているか聞いた方がよいのではないかとご指摘もあったかと思っておりますので、資料6「アンケート調査（船橋市民向け）」と資料7「アンケート調査（市外住民向け）」についてもそういう設問を設置するように検討していきたいと思っております。

○手嶋委員長

はい、ありがとうございます。今は小中高校でもSDGsを教えているということで、若い人もかなり意識が高くなってきたかなというふうに思っておりますので、ぜひ検討いただければと思います。12時をめぐりに終了したいと思っておりますが、まだ若干時間もございますので、ご質問がありましたらお願いします。

○篠田委員

せっかくアンケートを実施するので、できるだけ多くの回収をして頂きたいと思っております。また、資料6「アンケート調査票（船橋市民向け）」、資料7「アンケート調査票（市外住民向け）」のWEBアンケートにも、他のアンケート同様に自由意見欄があった方がいいのではないかと思います。前回の戦略プランで掲げている「オンリーワン船橋」をつくるにあたって、事業者から船橋市の施策に対してどういうものがほしいのかということを知ることが大事なことなのではないかと思います。また、一般の市民の方からも、船橋にもう少しこんなことがあったらおもしろいのではないかと、そういうことを書いてもらうような記入欄を設けてもいいと思います。最後に、アンケートの回収率を上げることをぜひ考えていただければと思います。以上です。

○手嶋委員長

ありがとうございます。最後に、自由記入欄には何でもいいので書いてくださいと書きやすいような形で作成すればいいとの話ですが、もしコメントがありましたらお願いします。

○事務局

ご自由にお書きくださいと記入欄を設けると意外と意見をいただけるので、ご指摘のとおり、自由に商工業に関する意見を書けるような欄を設けたいと考えます。また、できるだけ回収率を高めるために今回母数を増やしましたが、1割でも800社ということになります。その他、いろいろな回収を高められるような方策を検討したいと思います。

○手嶋委員長

委員会の予定時間はあと5分ぐらいですので、アンケートにかかわらず、コメントがございましたら、委員の方々よろしくお願いします。

○大塚委員

資料5「アンケート調査（商店街）」について、10年後の商店街のあり方というものを見

据えて、商店街・商店会に対してアンケートをとると思いますが、10年後の商店会長などの後継者がいるかどうかをぜひ設問していただけないでしょうか。

○事務局

恐らく商店会の組織としての会長や役員の担い手やなり手がいるかという趣旨のご意見だと思いますので、「商店会」としてどうかというところを考えていきたい。

○手嶋委員長

ありがとうございます。一般的に設問が多くなればなるほど回答率は下がっていくという、トレードオフの関係ですので、総合的に事務局で検討して頂き、できるだけ意見は取り入れつつも回収率を高めるよう配慮頂きたいと思います。

私は、司会をやっているため、意見をいう機会があまりありませんでしたが、一言だけお話しします。今回冒頭で申し上げましたが、10年間という非常に長期です。私は、大学で働く前は複数の中小企業の経営の実務をやっておりましたが、どうしても直近の目の前の課題の対処に追われていて、なかなか長期的な視点を持つということが大事だとわかっていてもやりにくいというのを感じています。今回アンケートでいろいろ質問をして、仮にそれが10年でということが書いてあったとしても、多くの方は今の課題を書いてしまうと思います。10年前に今のイスラエルとパレスチナの問題やロシアとウクライナの問題を予想できた方というのはそんなにいないとは思いますが。こういったことがエネルギー価格に反映して物価が全体的に上がり、あらゆる産業に影響を与えるような10年前にはなかったことが起こりますので、10年後を的確に予測するという事は非常に不可能な話です。私も自分の会社の長期的なプランやコンサルタントをやっていた時に大企業の長期的なプランを作成していましたが、必ずしも10年後こうなるだけではなくて、もしAという状況になったら、こんなことに気をつけよう、でもBという状況になるかもしれないので、もしそうなったらこういう対処も必要だ、というような決め打ちだけではなくて、複数パターンを選択肢みたいなものがあり、読み手である実際の産業に携わっている方々の参考にできるような、役に立つプランになったらいいなと思っております。言うのは簡単でやるのは難しいですが、そういったことを目指したいと思っております。

○手嶋委員長

最後に、次第5「その他、連絡事項」について事務局よりお願いします。

○事務局

第2回の策定委員会の開催は、令和7年3月行いたいと考えています。日程は、調整のうえ、別途ご連絡させていただきます。

第2回の策定委員会の議題といたしましては、本日ご検討いただいた各種アンケート調査も含めて、基礎調査の結果について、中間報告をさせていただいたうえで、本市の商工業の課題および今後の施策・事業の方向性について、ご議論頂ければと思います。

なお、委員の皆様におかれましては、本日もさまざまなご意見を賜りましたが、委員会の開催時間に限りがあることも事実です。委員の皆様の船橋市の商工業振興に関するご意見を十分に拝聴し、新たな戦略に反映させるため、ご都合の宜しい時間・場所にお伺いして、個別にご意見を伺いたいと考えております。担当者から面談のお願いの連絡がいった際には、大変お手数ですが、可能な範囲でご協力いただけると幸いです。よろしくお願い致します。

以上を持ちまして、第1回船橋市新商工業戦略プラン策定委員会を終了致します。ありがとうございました。

以上